

目黒稲門会会報



(題字：眞仁田 勉 初代会長)

第55号 2012年6月

発行人：大野 利幸 編集長：地田 博昌 事務局長：小杉 哲

事務局：〒152-0023 目黒区八雲4-9-14 Tel 090-7825-6270

2012年定時総会開催のご案内

2012年目黒稲門会定時総会を、下記の通り開催致しますのでご案内申し上げます。公私ともご多用の中と存じますが、奮ってご参加のほどお願い申し上げます。

総会では、2011年度事業実績報告、決算及び監査報告、2012年度事業計画、予算案等の審議を予定しております。

これまでの部会活動に加えて、さらに新しい部会の設立も検討されております。皆様のご趣味、ご経験を活用できる場を工夫し、多数の皆様にご参加頂けるよう準備致しております。

総会に引き続き、懇親会が行われます。今年も目黒雅叙園のお料理と、おいしいお酒、そして楽しい歓談のひとときを過ごされますよう、心よりお待ちしております。

なお、昨年同様、電気の逼迫が心配されますので、クールビズにてご参加賜りますようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 2012年7月22日(日)
受付開始 15時30分
総会・懇親会 16時～19時
2. 会 場 目黒雅叙園 2階 華しずかの間
目黒区下目黒1-8-1
TEL 03-3491-4111 (代表)
3. 交 通 JR山手線、東急目黒線、地下鉄南北線、三田線、目黒駅下車徒歩5分
東急バス権之助坂・日の出学園下車3分
目黒駅からの迎えバスの運行はございません。雅叙園よりの送りバスの運行がございます。
4. 会 費 10,000円、ご同伴家族 5,000円
当日会場受付にてお支払い下さい。
当日キャンセルの場合、予約の都合上、会費のご負担をお願いします。
5. 出欠 会報に同封の葉書にて、6月29日(金)までにご連絡下さい。(田島 記)

各部会からの案内・報告

若木会

若木会では、4月8日(日)の夕刻、毎年恒例の花見会を開催しました。

先輩方と合同の「心の若木会」で、若木会5名を含む13名の参加者で、目黒川の桜を楽しみました。今年は天気にも恵まれて満開の桜のもと、約1時間半のミニ・ウォーキングでイタリア料理店に到着し、尽きることなくおしゃべりが弾みました。

ご参加下さった方々、開催にご協力下さった皆様に心からお礼申し上げます。

なお若手二次会では、大震災からちょうど1年の節目でもあり、「防災・減災」について早稲田らしい議論になりました。自分たちに何かできないかと模索中ですので、楽しみにお待ちしております。

若木会部会長 石川智子



美術・歴史鑑賞部会

第35回実施報告：

3月29日（木）9時40分に国立新美術館（六本木）に参加申し込みメンバー17名、全員集合。一番で入館して、ゆっくり名画を鑑賞しました。

この『セザンヌーパリとプロヴァンス展』での要約説明には、「ポール・セザンヌ（1839～1906年フランス生まれ）のことを教科書では“近代絵画の父”と称している。マチス、ピカソ、ドローネイ、レジェ、そして他の多くの芸術家達にとって、セザンヌは偉大な巨匠であった。

セザンヌの静物画革命と言われている特長は、①何よりも構図を重視 ②視点を複数化する ③動きをつける ④自分の視点に忠実に…である。セザンヌの言葉に、“我々は、まず第一に円錐、円筒、球などの幾何学的形体を研究しなければならない。”とある。

少し勉強して、「リングとオレンジ」（オルセー美術館蔵）を鑑賞すると“なるほど！”感激する。

このセザンヌ展のキャッチフレーズ「構成至上主義で近代絵画を変えた」と言う静物画革命も少し理解できた感じがする。

その後の発表で、セザンヌ展の入場者は5月19日現在20万人を突破し、大変な人気であった。

鑑賞後は、美術館3階にあるフランス料理「ブラスリーボール・ボキューズ」でランチ。1時頃に解散いたしました。

今後の予定として、「ベルリン国立美術館展」（国立西洋美術館・6月13日～9月17日）を計画中です。

美術・歴史鑑賞部会長 後藤克彦



俳句部会

俳句の基本は写生です。ところが写生と言うと風景の写生と思う人が多いのですが、この写生はもっと広義に解釈され、大げさに言えば森羅万象が対象です。例えばセザンヌの絵でも静物あり、プロヴァンス地方の風景あり、かと思うと自画像を含む肖像画あり、水浴する裸体の人物ありです。これが写生なのです。俳句はそれを言葉で表現します。

日時 4月20日（金）14時～17時

第39回「萩句会報告」（順不同）

安 藤 虎 醉
川 井 素 山
保 井 寶 正
米 田 文 彦
牧 野 里 山
青 木 英 林
後 藤 克 彦
吉 田 啓 悟
丸 山 醉 宵 子
菊 地 崇 之
佐 久 間 喬
永 井 正 孝
佐 々 木 彩 女
佐 久 間 た か 子
阿 部 一 掬
長 島 清 山
(参考)

佐 藤 喜 仙

土筆摘み子等は負けじと競ひ合い
野火走る夕日の中を戻る子等
街路樹の地べたに這へる繁縷かな
自転車将棋倒しに春疾風
山里の地藏の顔に花吹雪
公園にシャボン玉追ふ児転びをり
鳥帰る灰色空に線を描き
うぐいすや哲学の径たもとほる
青ぬたをアテに一献縄のれん
山笑ふ峠から見る風景画
沈丁の香りの強き雨の夜
古の塚も息づく春の山
落ち合ひし無人の駅に山笑ふ
駅中に仲睦まじきつばめの巢
置き去りの養蜂箱や春の山
山笑ふ神代桜の二千年

犬ふぐり銀河のさまに咲きあふる
俳句部会長 佐藤喜孝

囲碁部会

今回は、三つの報告事項があります。

1. 例会。今年の囲碁例会もすでに4回（1, 2, 3, 4月）行われました。出だしは参加者も少なく低調でしたが、4月になって陽気も良くなり、14名の方々が参加され、盛況でした。この状態をキープしていきたいので、ご協力お願いします。この課題に対し、他の区の例では、まず、囲碁人口を増やすことを考え、具体的には難しい点がありますが、例えば、稲門会の会員関係者（男女を問わず）も対象とすることも、検討しているようです。
2. 第12回オール早稲田囲碁祭が6月2日（土）、日本棋院で開催されます。23区に近隣の稲門会を加えて、参加者250名ぐらいの規模になります。目黒囲碁部会からも例年通り、2チーム（1チーム5名）参加の予定です。奮って、エントリーお願いします。
3. 3月28日、中国の清華大学の教職員と早稲田大学教職員・校友会との親善囲碁交流戦が大隈会館で行なわれました。交流戦は、各自2回対局して6対4で清華大学の勝利でした。中国プロ棋士の指導碁もあり、校友会からの要請で、目黒からは、大久保が指導を受けました。指導碁への参加者7人が3～4子で挑戦しましたが、全滅でした。さすがに、プロは強いと、いまさらながら、感心した次第です。

囲碁部会長 大久保健治

麻雀部会

1. 目黒稲門会・麻雀大会が3区大会にかわりスペシャル大会として4月14日（土）目黒サンで12人参加し開催されました。

優勝は吉川氏、準優勝は松尾氏、3位は鈴木氏でありました。今回は役満が2回出るほどの大荒れの大会となりました。

2. 目黒定例麻雀大会が6月17日（日）武蔵小山のサンで12時30分より開催されます。奮ってご参加をお待ちしております。

麻雀部会長 鵜野洋治

グルメ部会

今年度の第1回グルメ部会は、4月15日（日）隅田川での早慶レガッタのOB戦に出場した井村副幹事長を桜橋の上から応援しました。後半に猛烈な追い上げを見せたものの、僅差での惜敗でした。

その後、川沿いの寺社を散策し、浅草の老舗てんぷら店「葵丸進」へと向かいました。

「葵丸進」の広い個室では、大野会長をはじめ、樋口、阿部両大先輩も加わり20名が美味しいお酒とお料理を味わいつつ、楽しいお話で盛り上がりました。

グルメ会の後、三々五々浅草の歴史跡をたどったり、現役の早慶レガッタ戦を観に隅田川べりに行ったりして、それぞれが春の浅草のひと時を堪能して帰宅しました。

グルメ部会長 海沼美智子



ウォーキング部会

皆さん歩いていますか。

元気に楽しく皆さんと歩きましょう。

6月予定：筑波山ハイキング

日時 6月19日（火）午前10時集合

場所 JR秋葉原 つくばエクスプレス改札前

Aコース（ケーブルカー） Bコース（歩き）

7月予定：目黒駅から碑文谷を巡る

日時 7月4日（水）午後1時集合

場所 JR目黒駅中央改札外

9月予定：三浦一族の和田の史跡を巡る

日時 9月18日（火）午後1時集合

場所 京浜急行 三崎口駅改札外

参加を予定する方はご連絡ください。

連絡先：牧野

ウォーキング部会長 牧野武夫



護国寺・大隈侯の墓前にて

墓碑銘は「従一位大勲位侯爵大隈重信之墓」

ゴルフ部会

ゴルフの道は遠く、その懐は限りなく深い。これほどまでに人の心をとらえ、悩ませる気晴らしがこの世にほかに存在するだろうか？

去る4月24日（火）第30回記念ゴルフ部会を静岡市の富士国際ゴルフ倶楽部において開催しました。当日は26名が参加、好天に恵まれ富士山の麓で、一日気持ちよくプレーしました。

今回は初めて新ペリア方式を採用し、結果は優勝浅海敏之氏、2位村上満氏、3位奥山哲朗氏と実力者が上位を占めました。

なお、30回開催された部会のうち、最多出場回数28回を数えた島田久家氏、同じく大野利幸氏には記念品を贈呈いたしました。

次回は10月初旬を予定しております。

詳細決まり次第改めてご案内致します。

ゴルフ部会長 大杉邦雄



山城？土の城？ですか？



木村 昭一 （昭和37年 商）

「ご趣味は？」と問われ「山城巡りです」と答えると必ず返ってくる言葉。次に「山城って？」、更に「城とドコが違う？」に続き、簡単に山城の説明をすると「日本中にどれだけある？」に。

去年（平成23年）1年間の日帰り・1泊・連泊の旅行は締めて68日、前は家内との旅行が年に10日位あったのに私の山城病が重篤になり去年は4日だけ、残りの64日は殆ど1人で（山）城巡り。北海道のアイヌ遺構・チャシから沖縄の世界遺産・グスク（城）まで全部で77城、例年100城だったがパワーが落ちた。そんな事もありこの10年間は前に比べゴルフ回数は激減。

普通＜城＞というとき＜天守（閣）＞を言うらしい。例えば織田信長で有名な素晴らしい縄張・普請の安土城へ行った時の地元の人「安土城に城はありません」、また多くの人が大阪城・名古屋城・熊本城…は立派だと言うがこの場合「天守（らしきもの＝この3天守は模擬天守で現存12天守には入っていない）が立派だ」と言うに他ならない。天守は城のごく一部だし、天守（多層櫓）は戦国末期以降に建てられた。近世の城の多層櫓や多門櫓、城門や石垣や水濠は美しい日本建造物の一つだし、山城ファンには城写真から入った人が多いのも確か。

7世紀の朝鮮式山城は別にして12世紀から戦国末期にかけて築城された中世の土の城、例えば解っているだけで滋賀県に1,300城、群馬県に960城…たぶん全国では4万とも5万とも6万とも。



〔上杉謙信の後継を巡る御館の乱で景勝が景虎を応援する北条軍を迎え撃つべく築いた越後・荒戸城〕

日本百名城や日本名城百選にも山城が何城かは選ばれていて、そういう著名な山城はアクセスも楽だがそれは極めてまれ、多くの場合は地元の人さえく？

＞な城ばかり。「あんな山の中をごそごそ歩いて何が楽しいの？」が標準的な意見。

お若いですねと言われた時に、私が健康で若く見えるなら、それは頭と身体と心に刺激を与え満足を追い求めるからと答える。この4つの要件を満たすのが山城巡り。

歩きたい山城を幾つもの資料から探し出しその城のデータを取る、旅程を計画し飛行機・電車・バス・旅館・場合によっては船便の計画をし手配する。これは＜頭への刺激＞。平時は山麓の館で生活している土豪は敵が攻めてくると山上の詰めの城（山城）に籠るので山城は時に比高差300mもの登攀を強いられることも…、また杉山の中を森林浴しながら歩く事も多く＜身体への刺激＞そのもの。先人のホームページから得た資料を基にハーハーゼーゼー言いながら歩き回り、往時の武士が己の命を守る為に自然に施した工夫の跡、今は埋もれている400年以上も前の遺構に出会った時の感動、どの資料にもない遺構を発見した時の喜びや心を和ませる古城の風景との出会いは＜心への刺激＞。土地の古老と話し土地の酒や魚を楽しみ時に温泉に浸かり帰宅して画像を整理、ブログ＜老コンサルの残日録＞にアップした時の幸福感、これが私の健康と若さの秘訣。



〔明智光秀の重臣・斎藤利三が城主だった丹波・黒井城。利三の娘・将軍家光の乳母・春日局の誕生地〕

総て目に映る近世の美しい城と違い、中世の土の城の楽しみは己の知識と経験と想像力を総動員すること。いわば＜探検的知的遊戯＞と言っていいかもしれない。

また今は休止中の＜お城メーリングリスト＞という素晴らしいMLで、NET上の多くの仲間がで、年に2回ほど、関東に住んでいる若い仲間とのOFF会で山城を歩く楽しみも。若い人達とのお付き合いも若さと健康の維持には大いに役立っていると思う。

城好きもいろいろで、城の歴史を重んずる人・縄張（設計）中心の人・私みたいに歩くだけ…も。

目黒稲門会会員の皆さんの中に「山城？面白そう！」と思われる方がおいでなら是非お声を掛けて下さい。近場のいい山城を案内します。

目黒区民として



尾崎 充 (昭和63年 政経)

恥ずかしいことで敢えて披露するような事ではないのですが、1年間の浪人生活の反動で大学3年までは、バイトと遊びに夢中で授業にもほとんど出ず、とにかく勉強は全くしないで過ご

した と言っても過言ではありません。

さすがに大学4年になると友達の会話の内容も就職関係の話題が多くなってきていました。その頃はバブル最盛期で学生を囲いこむために学生が企業から接待を受けるほどの異常さで、早稲田大学と言えどどこにでも就職できたような状況でした。

おかしな雰囲気を薄々感じて、何となく「このまま就職したらやばいなあ」と思い、司法試験にするか公認会計士にするか迷いましたが、経済学科でもあったので公認会計士を受験することに決めて、大学4年から勉強を始めました。大学受験でいわゆるマニュアル勉強はマスターしていたので、専門学校の模試でも初年度から合格圏内に入るものの受験1回目は敗退。さすがに国家試験なのでマニュアル勉強では合格しないことを悟り、専門学校には通わず基本書に沿って毎日10時間ほど「考える勉強」に徹しました。

その甲斐あってか運よく平成元年に公認会計士2次試験に合格して、海外駐在を夢見てKPMG港監査法人(現在のあずさ監査法人)に就職。しかしながら監査の仕事に接して2日目には、監査という仕事が好きになれず、こんなに苦勞して取った資格なのだと思います(実は10年後に自分が経営者になって監査の本当のニーズに気が付くのですが)。嫌々ながら仕事をしていた事もあって監査法人で上位職に昇進できなかった事を機に5年間勤めた監査法人を後にしました。

その後、会計士の資格のできる仕事としてマネジメントコンサルティングサービスや税務の仕事に就きたいと考え、大手の個人会計事務所に転職しました。その事務所ではマネジメントコンサルティングサービスに《株式公開支援、企業再生支援、PDCA(業績向上)コンサル等》や税務の仕事に携わったのですが、税務はその職務の中で関与先の課題を見つけて提案し、社長と一緒に解決策を考えて遂行する事ができますし、マネジメントコンサルティングサービスも、会社の課題やお困り事を経営者や経営幹部と一緒に解決をサポートする仕事で、そのお役立ち感と課題を解決したときの達成

感からこの仕事が楽しくて楽しくて仕方がなく、夢中になって仕事をしていました。実はこの時になってはじめて資格を取って良かったと実感しました。

その後、平成10年に独立して、株式公開支援、企業再生支援、PDCAコンサル、税務等を行っています。株式公開支援に関しては、報道等でご存知の方もいるかも知れませんが、昨年12月に社長(早稲田大学政経学部卒)が最年少上場果たしたりブセスの上場をお手伝いし、現在は社外監査役として引き続きサポートをしています。

目黒区とのかかわりですが、長女の学校の関係で平成10年に目黒に引っ越してきて早14年が経ちました。平成16年に目黒区戦略会議(と言ったと思います)の有識者として、目黒区の中小企業向けの利子補給制度、つなぎ融資制度等の創設に関して助言をし、その後平成17年度の目黒区の包括外部監査人(地方自治体の外部監査制度)に就任しました。

包括外部監査では、目黒区民としての区民目線からの提言を心掛けて、購入後何十年も有効活用されずに放置されている中目黒のJR跡地及び財政負担の重い箱根保養所等の売却も含めた有効活用、また守屋教育会館等の区民施設の耐震強度不足等を指摘したところ、目黒区として指摘されたくないところに触れてしまったためか目黒区に疎んじられ、外部監査契約は1年で終了となりました。包括外部監査人は、1年毎の更新契約で通常は3年間は更新されるのですが、1年でクビとなったという事になります。漏れ聞くとところでは、公認会計士は厳しすぎるからダメだと区役所ではいわれているようです。

昨今、目黒区の財政状態が厳しくなっており、区の施設や遊休施設の売却を進めていることは皆さんもご存知かと思いますが、本来はもう少し早い時期に着手できていたのではないかと思うと残念でなりません。また、外部からのチェック機能はとても重要だと思いますが、目黒区の包括外部監査制度は平成22年度をもって廃止されてしまいました。

話は変わりますが、大先輩が多いので恐れ多くて参加できずにいた「よん月会」に初めて参加させていただきました。参加してみると吉田先輩を筆頭に気さくな先輩ばかりで、楽しく先輩方とお話をできました。是非また参加したいと思います。



ウォーキングの川柳

木村 陽児 (昭和31年 商)

4年程前に旧友の桑野氏(前ウォーキング部会長)に誘われ、相模原稲門会メンバーと共に伊勢原の大山に登りました。これが目黒稲門会とのご縁です。

20数年前から、川柳を日誌代りに作って来ましたが、上達は捗々しく無く、底辺を彷徨って居る状況です。日課として、駄作の川柳を5句詠んで居ります。下記は昨年・今年の初めに参加時の駄川(駄作の川柳)です。

2011年6月、金町から水元公園

- ・ポプラ路西欧並の花公園 <公園の広さに驚愕>
- ・菅笠が見え隠れする花菖蒲 <菖蒲は満開でした>
- ・菅笠の管理係は公務員 <区の管理公園です>
- ・金魚園管理事務所が2ヶ所あり <盗難防止?>
- ・金魚槽なかには腹を上に見せ <高額金魚の死です>
- ・水補給ハイボール飲み暑くなり <アルコール補給>
- ・お帰りはこちらと土産の店員さん <裏門前>



2011年7月、三浦方面から鎌倉入口、名越切通し

この日は猛暑日で、切通の涼風が救いでした。

- ・山門をくぐる代金百円也 <逗子の古い寺です>
- ・通行料今でも残る逗子古刹 <京都の寺より安い>
- ・賽銭と入山料とる岩殿寺 <収入源、税金は0>
- ・入山料千円札で釣り貰い <釣銭は喜捨したいが>
- ・名越坂涼風吹いて息を吐き <暑さも吹飛びました>
- ・切通下界との差は5度以上 <木陰でした>
- ・法性寺猿に代わって猫2匹 <猿を祀る寺です>
- ・ウォーキング猛暑途中に居酒屋へ <早めの宴会>

2011年10月、三崎口荒磯海岸からソレイユの丘

海岸歩きはキツイです。圧巻は打ち上げを三崎港の小さな呑屋で“一杯”でした。

- ・鵜の島を左手に観て砂歩き <荒磯海岸歩きです>
- ・荒磯の砂地歩きで膝笑い <足の筋トレです>
- ・ソレイユの意味太陽と勉強家 <ソレイユの丘施設>
- ・入場料とらぬ三崎の広い丘 <広々とコスモスの花>
- ・飲む前に鮭ひとさく確保する <飲む前に買う>
- ・本鮭赤身が旨い三崎港 <旨いマグロでした>
- ・三崎港朝も早い夜も早い <海産物売場5時閉>
- ・三崎港店も夕方早仕舞 <漁港の朝は早い>

- ・裏道の呑屋が旨い三崎港 <酒銘柄は真澄>
- ・鮪には真澄冷よし持ちあげる <真澄は諏訪の酒>

2011年11月、王子駅から鬼平を歩く

時々五郎蔵、彦十とおまさも出現?しました。

- ・稲荷社にウォーキング狸参集し <狐でなく狸>
- ・古庭園裏門前に赤いビル <景観を損ないます>
- ・飛鳥山無料で運ぶエスカルゴ <簡易モノレール>
- ・モノレール名前通りのエスカルゴ <遅い速度>
- ・王子駅スカイツリーが垣間見へ <下町のシンボル>
- ・甘泉園鯛焼き買ってもお茶は無く <昔はあったが>
- ・記録的牧舎史猶に60年 <ご存知高田牧舎で一杯>
- ・正門横カレーが匂うレストラン <今も健在>

2012年1月、亀戸七福神巡り

正月気分の福を呼ぶウォーキングでした。

- ・七福神ご利益求めウォーキング <初詣の人も>
- ・初詣で門前蒲焼腹唸り <天神様の前の茶店から>
- ・デジカメにスカイツリーが又入り <亀戸は近い>
- ・くず餅を並んで買わせる船橋屋 <人件費節約です>
- ・炒豆屋老舗の店頭鳩群れる <鳩が豆狙います>
- ・4時からの水炊鍋で暖をとり <寒い中早めに一杯>
- ・熱燗と湯割りが進む寒風下 <冬の酒盛りです>
- ・亀戸のかを取りゃやがて皆がゆく <冥土逝き>



2012年2月 雑司が谷鬼子母神から早稲田迄

この日は目白駅集合で、想い出しました。目白は女子学生の多い駅でした。

- ・懐かしや目白は川村ポン女路 <青春の懐古です>
 - ・目白駅白線3本セーラー服 <川村学園の制服です>
 - ・鬼子母神本家と称すパンフ出し <キシモ神と読む>
 - ・漱石の墓石左に妻女墓 <雑司が谷霊園内です>
 - ・同好会記念写真は墓石前 <護国寺大隈侯墓前>
 - ・墓巡りと化した雑司のウォーキング <年配向き?>
 - ・荒川線電車が来たぞとカメラ向け <都電の雄姿>
 - ・金城庵そばを喰うより酒を飲み <定例打上の宴>
 - ・金城庵宴会締め蕎麦たのみ <昔はもり今天婦羅>
 - ・迷い辻文京豊島新宿区 <早稲田の東、区が入組む>
- 最後に、まだら呆け防止の為に、毎日一句詠んでみませんか。もの忘れが治るかも知れませんぞ。

昭和の川柳に

- ・佳句佳吟一読明快いつの世も

があります。此れを念頭において詠みたいものです。

木村水遊こと木村陽児



ハワイの思い出

永田 耕治 (昭和36年 商)
自動車会社に入社以来ずっと国内営業を担当していた私は、1975年12月、ホノルルのゴルフ場の支配人として赴任しました。

当時本田技研の社長をリタイアされた本田宗一郎さんが、取引先の損保会社から買って欲しい旨の依頼があったもので個人の資産でテークオーバーしたゴルフ場でした。

たまたまその契約のプロジェクトの一員だった私が、ゴルフビジネスのことを全く知らないにもかかわらず行くことになったのです。

出発前に本田さんから、儲けなど心配せず、地元の人に愛されるゴルフ場運営をするように言われたことを今でも鮮明に憶えています。

当時のハワイでは、明治時代に日本から移住してきた人達の2世代目となる日系二世が政治、司法、ビジネスの分野でも活躍しておりましたので、その人達もよく来てくれていました。

荒れていたコースの整備や来場者の拡大を図るに当たり、このような日系人社会の銀行の頭取や弁護士さん、会計士さんなどのアドバイスをもらい、徐々に経営も軌道に乗りました。

なにしろ英語もろくに話せない人間がたった一人での海外赴任ですから、ハワイでのビジネスのやり方やお客様の気持ちを理解するのに、日本語が上手な日系二世の方々には大変助けられました。

現在まで毎年2月におこなわれているパールオープンベースとなった本田さんを招いての初めてのローカルトーナメントも、その時皆さんからいただいたアイデアでした。日本のゴルフトーナメントで賞金王にもなったデービッド・イシイもそのころその人達の勧めで採用した一人です。

約2年半の短い滞在でしたが、その後本業に戻り退職まで海外関係の仕事に携わってきたなかで、この時の経験が大いに役にたった気がします。

仕事を離れた今もハワイが第二のふるさとのように感じられ、たびたび訪問をしてはお世話になった皆さんと旧交を温めています。



プロゴルファー アレン・ヤマモト夫妻と

ようこそ！部会活動へ

カラオケ部会へのお誘い

カラオケ部会長 田畑 繁

6月、月半ば頃から梅雨が始まりますが、これがカラオケ愛好者への自然の恵みなのです。1年で最も湿気の多いこの時期は、のどが潤い、少々歌いすぎても痛めることはまずありません。大いに歌おうではありませんか。

カラオケ部会の発足は1999年の10月でした。行きつけのバブでカラオケを楽しんでいた10人ほどの稲門会員が会を発足したと聞いています。その後幾つか店を変え、一昨年9月から現在の店におちつきました。今の会場は定員35名というゆったりした空間と、まずまずのメニュー、そして何よりも開店間もない最新の音響設備で、十分歌を楽しむことができます。



カラオケ部会は事前の参加申し込みは不要、遅れて来ても、早退してもOKです。3回ぐらい続けて来場され、雰囲気になじまれた方々が、レギュラーメンバーになっていくといった傾向が見られます。

歌われる歌は種々様々です。私たちは現役時代きびしさに耐えながら、一方で数多くの歌に親しみ楽しんできました。現在会員の殆んどが60～70才台ですから、歌も昭和40年代から平成初期にかけての歌謡曲が半数以上です。懐かしくも新鮮です。名曲は年を取りません。

ここ数年来、若い人達(50才以下?)の間でポップスやライブ形式の曲が人気です。時々、この種の歌が披露され会場が大いに盛り上がりたりもします。

あの時を懐かしみ、思い出に浸る歌、共感するメッセージを発信する歌、未来へ幸せ、希望を託する歌——。歌はいつも私たちと共に居ます。

皆さまのご来場を心からお待ちしています。

★カラオケ部会定例：毎月第2金曜日、午後4時～7時。コート・ダジュール目黒駅西口店(03-5436-2688)。会費：男性3,000円、女性2,000円です。よろしく。

特別寄稿

「早稲田のスクールカラー」ってどんな色？



外岡 明 （昭和26年 理工）

あなたは学生時代、早稲田のスクールカラーを何色と云っていましたか。

「えび茶色」ですか？「えんじ色」ですか？それとも「あずき色」

ですか？

恐らく多くの方が「えんじ色」と答えられるのではないのでしょうか。

私の学生時代は、「えび茶色」が通称でした。

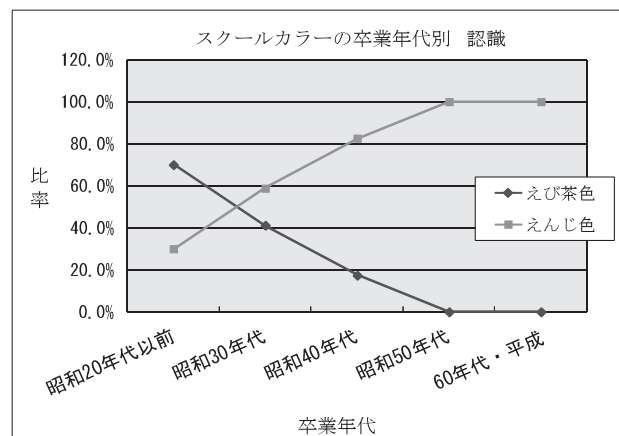
そこで、目黒稲門会の各部会長のお手を煩わし、諸会合に出席される方々と、そして一部会員外の方も含め、アンケート調査で実態を探ってみました。その結果は次の通りです。

設問：あなたは、学生時代に「早稲田のシンボルカラー」を何色と云っていましたか？

（えび茶色、えんじ色、あずき色その他）

回答：72名

卒業年次	回答者数 (人)	えび茶色		えんじ色	
		人数	割合 %	人数	割合 %
昭20年代・それ以前	23	16	70.0	7	30.0
昭30年代	17	7	41.2	10	58.8
昭40年代	23	4	17.4	19	82.6
昭50年代	3	0	0	3	100.0
昭60平成	6	0	0	6	100.0
計	72	27	37.5	45	62.5



上表には含んでおりませんが、30年代卒で「あずき色」と答えた方が一人おられました。

結果は、やはり昭和30年代後半頃がターニングポイ

ントの様ですね。

しかし、30年代前半以前のOBにも「えんじ色」と答えた方が意外に多いのに驚きました。

何故だろう？の正解は分かりませんが、仲間の何人かと話し合っている中に、正月恒例の「箱根駅伝」の放送が影響しているのではないかと、との推測ができました。

テレビ中継で、「えんじ色のユニホームが見えてきました」とか「今、えんじの襷が手渡されました」とかのアナウンサーの絶叫で、我々年配OBの頭にも「えんじ色」が刷り込まれてしまったのではないかとという説です。

（箱根駅伝は、大正9年（1920）早、慶、明、東高師、の四校で開催されました。第一回の優勝は東高師でしたが、早稲田は第三、四回に連続優勝しています。ラジオ中継は、昭和28年（1953）から、TV生中継は昭和62年（1987）から実施されています。）

2007年の時の日本テレビのアナウンサーは優勝校の校名を74回連呼し、画面のテロップに63回映し出されたと云う記事をネットで見つけました。

「えんじ色」への洗脳力が大きかったのではないかと思います。

ところで、「えび茶色」とか「えんじ色」とか、このスクールカラーに関して大学当局は、どう対応してきたのでしょうか。

『早稲田大学百年史』を捲ってみました。

（この百年史は、全七巻で構成され、本文のみで8,000頁を超す広大なもので、昭和53年（1978）に第一巻が発行され、最終巻の「総索引・年表」の発行が平成9年（1997）ですから、全巻発行まで19年を要した大著であります。）

この「早稲田大学百年史」から「えび茶色」から「えんじ色」への変遷を探ろうとしましたが、数千ページを通読することは私には不可能ですから、「総索引・年表」（500頁）から検索することにしました。

ところが、この「総索引・年表」の中には、「えび茶」とか「えんじ」の文字は見当たりませんでした。しかし、「スクールカラー」という索引で二箇所「えび茶」の記載がありました。

それは、第二巻・第四篇・第八章・四の「野球団渡米の快挙」の項に12行。そして第三巻・第六編・第八章・二の「大隈記念講堂の竣工」の項に6行。

前者には、「明治38年野球部の第一回アメリカ遠征の際のユニホームに校名を海老茶色のローマ字で浮き出させたもので、これは、コーチの母校シカゴ大学の校色に倣ったもので、早稲田と海老茶色の結びつきはここに始まった」と記してあります。

また後者には、「昭和2年大隈記念講堂竣工式典の

際、舞台に新調された海老茶色の緞帳を観て市島謙吉が“この色が校色である”と云って決まった」と記述されています。

(市島謙吉(春城)は早稲田四尊の一人で、初代図書館長。創立三十周年記念式典(大正2年10月)の時から校色制定の任を受けていた。)

結局、8000頁の百年史の中でスクールカラーの「えび茶色」に関しては、たったこの18行しか無く、また「えんじ色」は全く見当たりませんでした。一体「えんじ色」という呼称は何時頃、誰が提唱し、どの様な環境で学内外に定着して来たのでしょうか。「えび茶色」は垢抜けない、「えんじ色」は雅やかという人が、何人かいました。

恐らく自然発生的に生まれ、豊かな社会へと高度成長してゆく時流に乗ったのでしょう。しかし残念ながらそれを解明することは出来ませんでした。

2006年の入学式の式辞の中ほどで総長は、『明治38年野球部の第一回アメリカ遠征』のことに触れ、『正に校歌にある「進取の精神」』と称え、『その時新調されたユニフォームの文字色がシカゴ大学の校色と同じである』として、『奇しくも早稲田のスクール・カラーである海老茶色も、この年に端を発することになったのです。今も体育各部や、ありとあらゆる団体・サークルまでが、この海老茶・臙脂(エンジ)色に親しみを持って使っています…。』と述べておられます。

「日本の伝統色」(青幻舎)によると

海老茶色：JIS一般色名・暗い灰赤
該当の英色名・Indian Red
マンセル色度記号・6 R 3/4.5
日本では江戸中期の書に見られる。
明治中後期に女子学生の袴の色として流行した。

臙脂色：JIS一般色名・紫みの深い赤
該当の英色名・Crimson Red
マンセル色度記号・2.5 R 4/10
元々は顔料や染料の名称であって色彩名ではない。明治の中期から、色彩名として扱われる様になった。

とあります。

インターネット上で散見される「早稲田のスクールカラー」の多くが、“海老茶(えんじ)色”とか“えんじ(海老茶)色”の様に()書きで二色を併記しています。しかしこの二色は前述の通り「似て非なるもの」なのです。

早稲田大学のシンボルカラーは、「えび茶色」なのでしょうか、それとも「えんじ色」なのでしょうか。

学校側のスクールカラーに対する「バックボーン」が定まっておらず、「時の流れに身を任せ」で良いのかと予てから疑問に思っていました。が、私自身も曖昧な儘でも日常の活動に余り痛痒を感じていませんでした。

ところが、目黒稲門会の会報編集を担当した6年前(06年)「会報第25号」の印刷にあたって、従来の「墨一色」刷りでなく、文字色をスクールカラーの「えび茶色」にしようと編集委員会で決めました。そこで、大学の出版部に、学校で指定するえび茶色の「色値」を問い合わせたところ「色の問題は難しいので指定する色値はない。」との回答で色の明示はありませんでした。

止むを得ず編集委員が、早稲田大学の印刷物を何品か持ち寄り、印刷屋の色見本帳と照らし合わせて決めたのが、現在の会報の基準色[DIC-299]です。

印刷物を見たり読んだりする立場でなく、印刷を指示する立場になって始めて色の難しさを知りました。

絵具の三原色を混ぜ合わせて、独自の色彩を創り出す絵画の世界や、文字で色を表す文学・詩歌の世界では、作家の豊かな感性によってその色彩表現が導き出されるので、デジタルな「色値」は全く不要でしょう。

しかし、このアナログ的な色の表現は、常に曖昧さが付き纏いますが、「その色」を印刷させるためには、「その色」に「固有の数値」を与えて「色値」として示さねばなりません。

然もなければ、まるで羅針盤なしで航海する様なものです。

その後、09年に再度大学出版部へスクールカラーについて問い合わせたところ「創立125周年を迎えた2007年を期して、その基準色を決定した」と云う朗報を得ました。

決定された内容は、

・公式名：[早稲田レッド]

・基準色：[DIC-2486]

「DIC」は、DIC社(旧大日本インキ)のカラーガイド。「2486」は、その色を数値化した固有の色番号。

昭和2年、市島謙吉によって「この海老茶色が校色だ」と決まってから80年。曖昧であった早稲田大学のスクールカラーが数値によってその「基準色」が決まったのです。

(色見本が印刷されている紙は、マット紙なので、それ以外の紙や布などに印刷した場合は、見本色の再現は難しいことからこれを「基準色」と云います。)

それによって、昨年半ば頃から当会の新編集委員の

間で、これを機に会報の文字色を新制定の早稲田カラーにしたかどうか、との意見が出てきたことを知りました。

そこで、大学側の「基準色の許容範囲」について調べておく必要があると考え、昨年9月に再び大学出版部に問い合わせました。

ところが、出版部の話では、

- ① スクールカラーの運用責任は出版部にはない。
 - ② 大学としての総括は総務課であり、法的問題は法務課が担当する。
 - ③ 但し、これは大学側の担当であって、稲門会等校友会については、大学は関知せず、校友会事務局が窓口になっている。
 - ④ スクールカラーについても、校友会は独自の色を選定しているので、校友会に聞いて欲しい。
- と云う内容で、些か驚きました。

即刻、校友会事務局に電話し、スクールカラーの運用についての校友会の見解を伺いました。

校友会の見解は、

- ① 早稲田大学が創立125周年（07年・H19）を機に制定したスクールカラーの「早稲田レッド（DIC-2486）」は、従来の「えんじ色」の感覚からは、少し赤みが強く明るい色で、校友会各位から違和感を覚えるという意見が寄せられた。
- ② 「早稲田レッド」は「大学内の基準」として決められたものであり、校友会は必ずしもこれに拘束されるものではないと考えている。
- ③ 校友会では、2003年から使用している校友会シンボルマークに含まれている「えんじ色」に近い「DIC-305」を継続使用している。
- ④ 呼称も「早稲田レッド」ではなく、「えんじ色」とした。
- ⑤ そして今年（11年）の「早稲田学報」4月号から採用している。
- ⑥ 色彩感覚は、個人差の幅が広いので特定の「DIC-No」を押し付けることは難しいと考え、ケース・バイ・ケースで運用している。

と云う内容のものでした。

スクールカラーに対する大学と校友会の相違

	大学学内	校友会	目黒稲門会 (参考)
名 称	早稲田レッド	えんじ色	
基準色 DIC-No	2486	305	基準 299 (現行は329)
CMYK 値	%	%	299 値 %
シアン	C = 0	C = 40	C = 24
マゼンダ	M = 98	M = 96	M = 98
イエロー	Y = 74	Y = 96	Y = 71
カーボン・黒	K = 45	K = 0	K = 0

そこで、これらの色を目視できる資料を探しました。

- ① 大学制定の新スクールカラー「早稲田レッド（DIC-2486）」は、大学の「ロゴ」マークの色であり、広報室や学生部発行の冊子、体育各部や団体・サークルで使用されており、オリジナルグッズ、広告媒体、大学の封筒、手提げ袋等で見ることが出来ます。

（このロゴマークは125周年の2007年に新しく制定した早稲田大学のシンボルとなるもので、校章と角帽をモチーフとした◇形ものです。）

- ② また、校友会の「えんじ色」は、「早稲田学報」にあります。お手許にある昨年（11年）4月以降の「早稲田学報」を見て下さい。

表紙の右下に直径15mmほどのマーク（○丸の中にWが入っている）があります。これが「校友会のシンボルマーク」ロゴです。

そのWの文字の左半分が「黒」で、右半分が「えんじ色」でこの色が「DIC-305」です。

またそのWの下にある小さな文字「WASEDA ALUMNI SINCE 1885」と、学報の中の常設記事になっている「稲門だより」の表題のバックの色も「DIC-305」です。また昨年8月以降送付されている「早稲田学報」のポリエチレン製の封筒の色は、「早稲田レッド」（DIC-2486）に近い色」と聞いております。

「DIC-2486」と「DIC-305」には多少の色の差はありますが、紙質や印刷素材によっても色の違いは生じるのですから、何れかに統一することが出来なかったのでしょうか。

学生たちは、「早稲田レッド（DIC-2486）」の環境で学び、育ち、卒業すると「えんじ色（DIC-305）」の環境下のOBとなるのです。

以上、スクールカラーについて調べてきましたが、どうしても腑に落ちないことが残りました。

それは、

- ① 大学が、「シンボルとしてのスクールカラー」の呼称の変遷（えび茶色からえんじ色に）に何故、関心を持たなかったのだろうか。
- ② また、大学と50数万人のOBを擁する校友会が、スクールカラーのバックボーンとなるべき「基準色」の決定に、何故、同一步調がとれなかったのだろうか。
- ③ 早稲田大学公式サイト（ホームページ）の何処を探しても「スクールカラー」、「えび茶」、「えんじ」、「早稲田レッド」の文字や記事が、全く(?)載っていないのは何故だろうか。

(慶・明・法・立 各校のHPには「シンボルカラー」或いは「スクールカラー」として紹介されています。) などです。

しかし、これらには何かそれなりの理由があるのではないか。私の既成概念や認識不足による何らかの錯誤があつては申し訳ないとの思いがありました。そこで、それを正すには大学の所轄部門の見解を直接確かめるべきと考え、3月の半ばに総務部を訪ね、責任者(総務課長)と懇談しました。

その結果、やはり彼我に大きな相違がありました。「スクールカラー」と云うものに対する見解が大きく異なっていたのです。

私は、本文で縷々述べてきた様に「スクールカラー」は、その大学を表す「シンボル」だと思っていますが、「早稲田のスクールカラーは、規定はないが、すでにaboutな色で一般に定着しており、改めて議論が必要とは考えていない」と云う見解でした。

「早稲田レッド」と「スクールカラー」に関する懇談内容を要約しますと

☆ 早稲田大学の現状

早稲田大学の規約に、所謂「スクールカラー」の規定はない。

現行の「早稲田レッド」は、学内で使用する場合の運用指針として定めたものであるため、特に学外には公示していない。

☆ その他の内容

- ① 昔から言われているスクールカラーの「えび茶色」の起源については、『明治38年の野球部のアメリカ遠征の折に…。』とか『昭和2年の大隈講堂竣工式の折に…。』とか『早稲田大学百年史にも記事として載っているが、それらは「大学として正式に決議されたもの」ではない。それを裏づけるべき、早稲田大学の「規則」、「学則」などには、全く記録されていない。
従って、それらの歴史は、今では伝説的「話」の範疇と言って良いだろう。
- ② 単に、「スクールカラー」は何色か、と問われるなら「えんじ色」と答える。
現在の世の中で「えび茶色」は通用しない。
「えび茶色」と言われて、その色をイメージ出来る人は少ない。
しかし、「えんじ色」ならば、誰でもその色をイメージ出来る。
- ③ インターネットなどに投稿されている「スクールカラー」や「早稲田レッド」などの内容について

ては、夫々のサイトの責任であり、大学は関与していない。

- ④ 学外(含.校友会)で使用される「えんじ色」についても、使用者の判断に任せており、色値を指定することはない。
- ⑤ 以上は、早稲田大学本来の「在野精神」に由来しており、このaboutさが早稲田らしくて良いのではないか。
等々でした。

冒頭に示した様に「えび茶色」から「えんじ色」への変遷は、現在では「えんじ色」に帰一しています。すると今度は「早稲田レッド」と「えんじ色」に再び二分化されるのでしょうか。

「次の125年に向かって進み始めた」今日、早稲田大学と校友会とが、「早稲田大学のシンボルであるスクールカラーの呼称を一本化する」と共に、その「バックボーンとなるべき基準色を統一する」ことを心から願うものであります。

了

[参考]

- ① 慶応義塾大学のホームページには、「ブランドカラー表現システム」として、校章のペンマークが『イエロー (DIC-N805)』、三色旗が『ブルー (DIC-N899)』と『レッド (DIC-F788)』の三色が公式ブランドカラーとして明記され、その上 この基準色が使えない場合は、近似色として、プロセスカラー、ウェブカラー、マーキングフィルム夫々に「カラー No」が決められています。
- ② 日本の大学のスクールカラーをネットで検索してみました。
大学数、273校のうち、「臙脂」を校色としているのが29校ありました。 が、そのうち2校が「臙脂(えび茶色)」となっていました。それは、名城大学と早稲田大学です。
「えび茶」は、1校もありませんでした。
その他は概数ですが、青系が60校、緑系が50校、紺系が30校などでした。

新 入 会 員



朝比奈義雄 (昭和33年 法)
(碑文谷在住)

趣味：カラオケ、ゴルフ

安藤虎雄先輩から勧められて入会しました。会社役員を10年前に退任し、現在は老人クラブの会長としての活動、お寺の「講」の行事などに参加し、結構忙しく過ごしております。

どうぞ宜しくお願いします。



高橋 俊行 (平成18年 文)
(五本木在住)

中西千可子さんから熱烈的な勧誘を受け、若木会の交流会に参加し、とても楽しかったので入会することを決めました。

なお、仕事は子ども専用の相談電話の事業を行っている非営利団体です。

日時の都合など、参加できる機会は限られてしまうとは思いますが、幅広い年代のみなさんと、いろいろなことを語り合っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



松田 正孝 (昭和34年 法)
(狛江市在住)

趣味：ゴルフ、囲碁、読書、旅行

三菱銀行に入行し、50歳で定年退職。以後中小企業診断士として(財)企業経営通信学院で中小企業診断士の受験指導に約12年間従事。現在企業経営コンサルタント自営。

夫婦で旅行の折、偶然大久保健治さん夫婦と知り合い入会させて頂くこととなりました。小生仲間とのゴルフ、囲碁勉強会などの参加が多く、当面主として囲碁部会に参加させて頂き下さい。よろしくお願い致します。



岩田おさむ (昭和59年 理工)
(中町在住)

趣味・特技：天気予報

卒業後はPCソフトウェア会社である米国マイクロソフト社の日本法人に創立メンバーとして入社し、ITの世界に20年以上身を投じました。

独立後、平成13年に気象予報士を、平成21年に中小企業診断士を取得しました。

現在は株式会社オフィスイワタ代表取締役社長と

して、本業の経営診断の他に、日本気象予報士会専務理事として気象・防災の世界にも顔を出しています。個人的には酒とジャズと宝塚歌劇と相撲を愛し、東京ヤクルト優勝の夢に心躍らせている毎日です。

どうぞよろしくお願いいたします。

2012年度校友会担当委員・幹事

目黒稲門会は、早稲田大学校友会および東京都23区支部に推薦委員や幹事を派遣し、情報の収集や伝達、催事への要請に対する協力をおこなっています。目黒稲門会から推薦・派遣をしているのは次の方々と、重要な任務を担っていただいています。会員各位におかれましても関係委員からの活動要請にご理解と積極的なご協力をお願いいたします。

＜商議員会＞大野会長、浅海相談役、海沼副会長、
服部監査役、吉田幹事長

＜代議員会＞大竹副会長、井村副幹事長、
小杉事務局長、中上幹事

＜幹事長・事務局長会議＞小杉事務局長

＜東京都23区支部幹事会＞井村副幹事長

＜稲門祭実行委員会＞安藤（孝）幹事、笠谷幹事
(吉田 記)

編 集 後 記

「ラグビーのユニホームの色が変わったように思う」「我が会報の印刷色が設定当時とずれていないか」などという会員の声や、インターネット上でも、箱根駅伝のファンという女性から「早稲田のタスキの色が変わった」など、早稲田カラーに関する声があります。

会報印刷色のカラー化を進められた、当時の編集長・外岡現相談役もこうした声に関心をお持ちになっておられるとお聞きし、ご迷惑かとは思いましたが、早稲田カラーについてご寄稿下さるようご無理をお願い致しました。

半年以上にわたる聞き込み、調査、大学・校友会からの情報収集、確認・検証等々、大変なご苦労をおかけしてしまいました。

数百、数千にも上る大学関連のグッズ、書籍、チラシ、ポスター、ユニホーム等々に使われている早稲田カラー。多くの校友は日頃、何げなく早稲田カラーを目にしているのではないのでしょうか。

本号の稿をお読みいただければ、あなたも今日から早稲田カラーの「通」。皆さんの関心も高まることと思います。小生も読後、見る目が変わったような気がします。
(地田 記)